

5. 生涯学習施設等／スポーツ施設

◆スポーツ施設

①施設の防災面の視点

可児市地域防災計画では、B&G 海洋センターは指定一般避難所（第2次）および災害時の優先電話設置場所に指定されています。また、防災ヘリの緊急離着陸場に可児市運動公園、広見市民グラウンド、坊主山市民グラウンドが指定されているほか、可児市運動公園は、応援部隊の活動拠点として指定されています。

②マネジメント基本方針等で示された課題

（※数値等は個別施設計画策定時【R2.12】のものであり、その後変更となっている場合があります。）

◆施設目的と利用実態

本市のスポーツ施策は、「一市民一スポーツ」の振興や、人材の育成、スポーツ施設環境の整備などに、可児市体育連盟や可児U N I Cスポーツクラブ等と連携しながら取り組んでいます。平成29年度からは、指定管理者制度を導入したことにより、利用件数も増加となっていますが、利用率の低い施設もあるため、施設の効率的な運営を図る検討が必要となります。

また、スポーツ施設の老朽化も進んでいることから、計画的な改修が必要となってきます。

③施設の今後の方向性

◆気軽に利用できるスポーツ施設環境の整備・充実

生涯にわたりスポーツに親しみ、楽しむことが出来るよう、より身近で利用しやすいスポーツ施設を計画的に改修し、安心して安全なスポーツ施設環境を整備していきます。

- ①スポーツ施設の管理
- ②指定管理者制度によるスポーツ施設の効率的な運営
- ③可児市運動公園等のスポーツ施設の整備

④ライフサイクルコスト削減の目標

(1) 施設の長寿命化検討

【長寿命化により令和 33 年以降の建替えとなる施設】

B & G 体育館

検討効果 3 億 9,300 万円削減

(2) 施設規模の縮小検討

令和 32 年までに建替えとなる施設はありません。

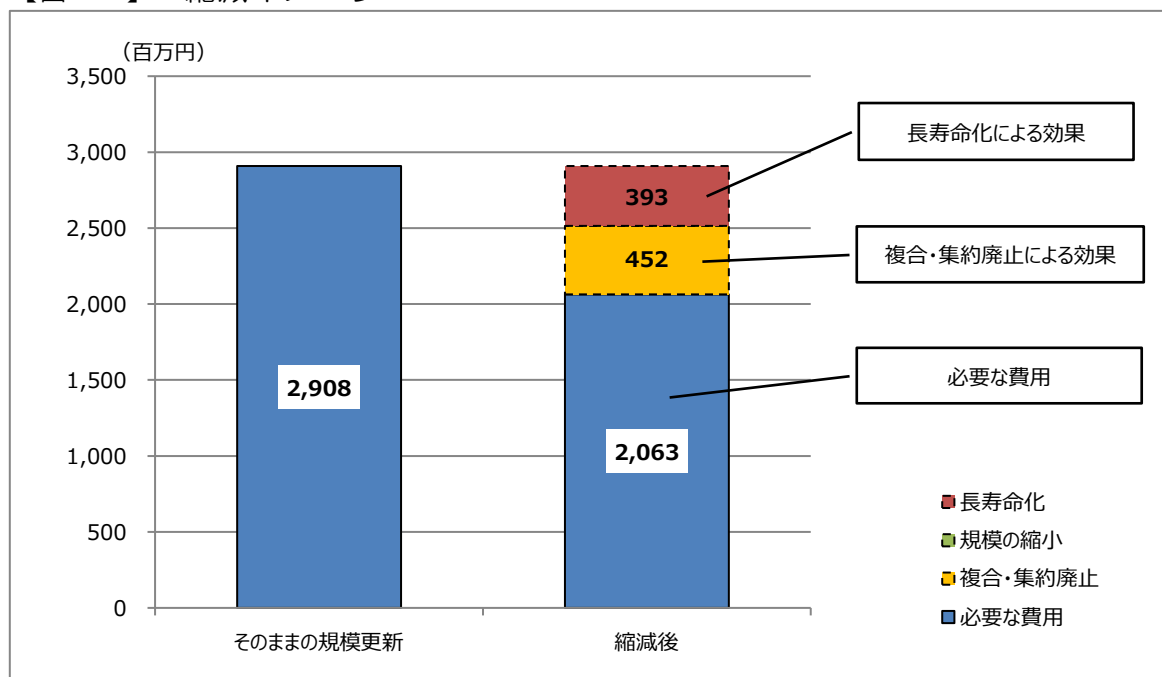
(3) 複合・集約廃止の検討

【検討の対象となる施設】

B & G プール

検討効果 4 億 5,200 万円削減

【図 2-5】 削減イメージ



◆ライフサイクルコストの削減の対象とならない施設（平成3年以降建築）

第一弓道場、鳴子近隣公園テニスコート、第二弓道場、ウエイトリフティング場、KYBスタジアム、KYBテニスコート